

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

平成30年6月28日

①事業者名	公益財団法人 日本漢字能力検定協会					
②測定ツール名	文章読解・作成能力検定 準2級					
③主な対象者	高校2年生から3年生					
④対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○					○
⑥申請する測定ツールの目的・概要	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的としています。					
⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を5つの大問により測定します。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視しており、準2級では100字程度の通信文、550字程度の論説文の作成を課しています。測定は1回で完結しますが、年間6日程全てで同レベルかつ異なる問題(新しい問題)を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能です。また、大学や企業での活用例も増えてきているため、学習した内容・結果がそのまま入試やレポート作成、就職試験などの将来にも役立ちます。					
⑧実施期間、年間実施回数	年間6日程(8月～11月で3日程、1月～2月で3日程)のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できます。全ての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程(時期)を選択することも可能です。					
⑨実施方式 (CBT/PBT)	PBT					
⑩試験時間(分)	国語	数学	英語			
	60分					
⑪受検料	3,000円(税込)／回					
⑫標準返却期間	約40日後					
⑬URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	http://www.kanken.or.jp/bunshouken/					

(様式2)

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 準2級

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

I. 出題に関すること

(1) 出題の基本方針

国語の基礎学力の定着度合を確認することを目的として、国語における「書くこと」「読むこと」に関する能力を測定します。

出題範囲は、中学校「国語」の学習内容理解を前提とした、「国語総合」の学習内容とします。診断は1回の受検で完結するものですが、複数回受検したり、上位の級にステップアップしたりすることで、より明確に伸長度が確認できます。

出題形式は、選択式と短答式・記述式であり、知識・技能などの基礎問題に加えて、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・表現力等を問う問題を出題します。

特に一定数の文字量を要求する記述問題を必ず2問以上出題します（100字程度の通信文記述問題、550字程度の論説文記述問題）。

(2) 構成等

① 出題形式

選択式 15問程度（三択または四択）

短答式 3問

記述式 2問（100字程度1問、550字程度1問）

② 出題範囲

<各回共通> 「国語総合」の学習内容8割程度、中学校「国語」の学習内容2割程度

(3) 難易度設定の考え方・方法

出題語彙について、漢検準2級程度（高校在学程度）を基準としており、読解問題及び記述問題については、約16,000人を対象としたモニターテストの実施および過去5年間の検定実施実績により難易度を設定しています。

(4) 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

読解問題では、日常的な題材から社会的な内容にまで範囲を広げ、問題を解くことで、受検者が、国語の能力を高めると共に視野を広げ新たな情報を得ることもできるように配慮しています。グラフや図表読解では、図表読解の力を養成するだけでなく、レポートや報告書を作成する際に図表を効果的に利用することが可能なように学びを工夫しています。

論説文の作成では、受検者が日常的に触れることが多いテーマを選び、興味関心を持って取り組むことができるようにと考えています。論説文の作成を条件通りに行うことで、ブレイン・ストーミングを活用した材料集め、事実を根拠とした説得力のある文章構成、論理的な思考をことばで表現することなどが総合的に学べます。さらに、手紙文の作成では、日常的には触れないものの、進学後や就職後の実社会に出て必要となる場面を想定した問題を出題しています。

(5) その他特長

Ⅱ. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

<結果提供項目>いずれも紙媒体での提供

- ①問題 ②正答・作成例 ③総合得点 ④合否判定 ⑤結果総評 ⑥選択式問題の結果詳細(正誤)
⑦分野別得点 ⑧合格者平均点 ⑨記述問題の結果詳細 ⑩今後の勉強方法(学習アドバイス) ⑪
本人と同じ年齢層の分野別得点率

<個別の内容>

- ①問題：受検終了後に一旦回収し、翌日以降に配付します。
②正答・作成例：受検5日後を目安にwebサイト上で公開します。これにより、受検後早期に確認することが可能です。
③総合得点：200点満点で示します。
④合否判定：当該級のレベルに到達しているか否かがわかります。
⑤結果総評：得意な分野と苦手な分野がわかるように記述文で示します。
⑥選択式問題の結果詳細：選択式問題のそれぞれについて、正誤及び無答、失格(指定外の個数をマーク)を記号で示します。復習する際に役立ちます。
⑦分野別得点：設問分野別の得点を示します。
⑧合格者平均点：設問分野毎の合格者平均点を示します。これにより、自己と合格者との差を確認することができます。
⑨記述問題の結果詳細：記述問題について、採点ポイントごとに何ができていて何ができなかったのかを示します。
⑩今後の勉強方法(学習のアドバイス)：何が課題であり、どのような観点で学習していくことが望ましいのかを示します。
⑪本人と同じ年齢層の分野別得点率：受検者には、本人と同じ年齢層の分野別得点率を示します。自己の能力がどのあたりのレベルにあるのかがわかります。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

<結果提供項目>いずれも紙媒体での提供※帳票サンプルを添付。

- ①申込者数・欠席者数・受検者数・合格者数・合格率(級別表示) ②受検者全員の得点・合否一覧
③設問分野ごとの平均点の比較 ④結果コメント(得意分野と苦手分野の指摘)
⑤枝問・小問ごとの正答率分析比較(選択式問題限定)

注) ①と②については学校専用webサイトから加工可能な電子データとしてダウンロードが可能

<個別の内容>

- ③学年クラス別に設問分野ごとの平均点を表示するため、全国平均や合格者平均との差異を把握できます。
④総括的に学校ごとの得意分野と苦手分野を示します。
⑤選択式問題において、具体的にそれぞれの問題の正答率が確認でき、次の指導に活用できます。

(3) 試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法

検定結果は合計200点満点のスコアで表示するとともに、測定する能力分野ごとに同年齢層との差異を示します。

また、結果総評として得意な分野と苦手な分野がわかるように記述文で示すとともに、記述問題に関しては、問題ごとに採点ポイントを設け、それぞれの条件を満たしたか否かを記述詳細に表示します。手紙文では、書くべき内容は問題ごとに変わりますが、それ以外の項目(敬語や文のつながり)は共通です。また、論説文は毎回共通の視点(文章構成、事実の具体性、意見の明確さ、理由や反論の説得力の有無、表現表記の瑕疵の有無)による結果詳細を表示します。そのため、過去の

成績（検定結果）と比較することが容易です。さらに、各自の苦手分野に関しては、「今後の勉強方法」でアドバイスを示し、苦手分野の克服の助けになるものと考えています。

Ⅲ. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

専門的な知識を有する研究者、教員等で構成した問題作成委員による問題原案を、問題作成検討会（4回以上開催）で精査し、完成させています。また、検定実施後に、受検結果データを分析し、設問文にあいまいさはなかったか、問題の難易度に大きな差異はなかったかなどについて検討しています。その結果を問題の向上に活用しています。

(2) 学校における実施方法

学校での実施にあたっては、事前に「準会場の手引き」（準会場規定含む）等の対応マニュアルを配布します。事前に不明点を確認したい場合や当日のトラブルに備え、通話料無料のお問い合わせ窓口を設置しています。

学校単位、クラス単位、また希望者のみなど、様々な単位で受検できます（10名以上）。またクラス内の生徒間の学力差に応じて、同一教室内で、別の級を同時に実施することが可能です。学校には、申し込みや入金などの事務と本検定の実施当日の運営を行っていただきます。具体的には問題冊子・解答用紙の配布、実施時の監督、解答用紙の回収と当協会への返送を行っていただきます。

(3) 採点の方法と体制

採点は、採用試験をクリアして採用され研修を受けた採点員（主に大学や高校または予備校等の講師等経験者や大学院生等）により、あらかじめ協会が定めた採点基準に則って採点ポイントごとに行われます。1つの答案に対して複数回（別の採点員が採点）採点し、採点員による差が出ないように配慮しています。その上で、採点員ごとに最終採点結果との差異を評価し、採点員本人に随時伝えることで精度向上に努めています。

また、採点時は、当該問題の解答欄のみを表示する仕組みをとっており、答案用紙の会場名・氏名等の情報を採点員は知り得ず、公正性を担保しています。

(4) 情報管理体制

当協会は、情報セキュリティ基本方針並びに個人情報保護方針を策定し、運営しています。また、一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）の審査を受け、2004年よりプライバシーマーク付与事業者として登録され、更新審査も7回経ています。

IV. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

弱視等の視覚障害のある受検者の場合、問題冊子・答案用紙を拡大して受検することが可能です。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

事前／事後学習教材として複数種の問題集を用意していますが、別料金のため任意での使用となります。

なお、受検者に対しては事後学習用の無料教材を検定結果と共に配付しています。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

アンケートについて必須のものはありませんが、ご要望に応じて作成・実施することは可能です。

(4) 個人受検の可否

一部地域（2018年時点では東京・大阪）において、個人受検用の会場を設けています。

(5) 問題内容の情報提供

既出問題については、過去問題集の販売という形で一般に提供しています。サンプル問題や正答例についてはホームページに掲載しています。また、受検者・受検校には、受検した問題・標準解答を提供します。

(6) その他

学校の許諾なく、教育委員会等へ情報提供することはありません。

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 準2級

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

I. 出題に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準					
			I. (1)	I. (2)	I. (3)	I. (4)	I. (5)	

II. 結果提供に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準	
			II. (1)	II. (2)
帳票(生徒向け)	検定結果通知	3-1	○	
帳票(学校向け)	会場別成績資料	3-2	○	

III. 運営に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)	文章検ガイド	3-3
学校用実施マニュアル	準会場の手引き	3-4

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
情報管理体制に関する書類	プライバシーマーク登録証	3-5

IV. 情報開示に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

平成30年度版

文章検ガイド

書けない人は書けるように、
書ける人ももっと書けるように。

受験にも社会生活にも大切な、
読み書き伝える力を、
論理性に基づいて「測る・育てる」のが
文章検です。



漢検 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

【本 部】〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地
【東京事務局】〒100-0004 東京都千代田区大手町2-1-1 大手町野村ビル

スマートフォンから簡単アクセス ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶
文章検ホームページ
<http://www.kanken.or.jp/bunshouken/>



「漢検」、「漢字検定」、「文章読解・作成能力検定」、文章検ロゴは登録商標です。

お問い合わせ窓口 **0120-509-315** (無料)
音声ガイダンスに従って「文章検についてのお問い合わせ」は「3」を押してください。

お問い合わせ時間：月～金 9:00～17:00(祝日・お盆・年末年始を除く)
※検定日とその前日の土、日は開設
※検定日と申込締切日は9:00～18:00

社会生活においては、 コミュニケーション能力が 必要不可欠です。

私たちは、企業や学校といった社会の中で、他者が発する情報を読み取り、自分の思いや考えを他者に伝えるということを頻繁に行っています。私たちが社会の中で自立した一人の人間として力強く生きていくためには、豊かなコミュニケーション能力が必要不可欠です。

コミュニケーション能力は 文章能力と結びついています。

情報化が進む現代社会においては、文章を通じたコミュニケーションの占める割合が高くなってきています。つまり、他人の文章を正確に読み取り、自分の考えや意見を的確に文章で表現する能力が、社会生活において必要不可欠なコミュニケーション能力と一致しているのです。その能力を高めることができれば、日常生活をはじめとして、学業、進学、仕事、就職といった社会生活も、より充実したものになるでしょう。



学校・教育機関の現場では・・・

学習指導要領では、知識や技能の習得とともに「思考力・判断力・表現力」の育成が重視されています。この3つの力は、受験や社会生活で求められるコミュニケーション能力の基礎にもなっています。

大学入試の状況

近年の大学入試では、私立大学入学者の約5割が推薦・AO入試での合格者となっています。また国公立大学の2018(平成30)年度入試では、AO入試を実施する大学が85大学240学部(全体の40.5%)、推薦入試を実施する大学が162大学467学部(全体の78.9%)と過去最多となることが見込まれています。

ほとんどの推薦・AO入試は、学科試験や書類審査のほか、面接や小論文などで選抜されます。そこで求められる力は、自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく的確に伝えるための論理的思考力(考える力)やコミュニケーション能力です。

※入試状況データは文部科学省 HPより抜粋(平成29年10月25日発表)

大学入学後の状況

入試だけでなく、入学後も文章能力や論理的思考力は求められています。大学に対して実施したアンケート(2017年8月～10月調査、有効回答数409校)では、「学生が高等教育を受けるにあたり日本語を用いた文章力や論理的思考力は重要だと思いますか?」という質問に対し、約99%の大学が「非常に重要である」「重要である」と回答しています。また、「日本語を用いた文章力や論理的思考力に関連する授業がありますか?」という質問に対しては、「ある」が約83%となりました。「ある」と答えた大学では、初年次教育として文章能力や論理的思考力を伸ばす授業を行っているところもあり、その重要性ゆえにカリキュラムに導入していることがわかります。

官公庁・企業の現場では・・・

「社会人としての文章能力」が求められています！

当協会では、東証一部上場企業に対し、「採用予定者(新卒)に求める文章能力に関する意識調査」*を行いました。

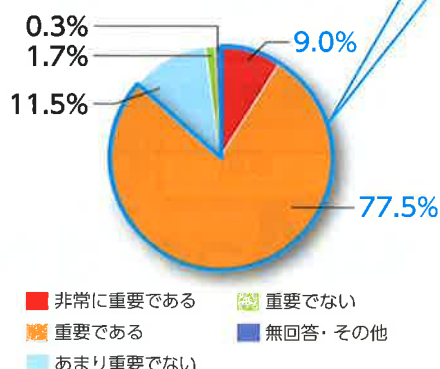
その結果、多くの企業が採用予定者(新卒)に対して“社会人としての文章能力”を求めていることがわかりました。

文章能力向上を通じてコミュニケーション能力を高めれば、顧客とのやりとりがスムーズに進むようになります。さらに、同僚や部下の能力を十二分に発揮させ、成長させることも期待できます。

*2015年4月～6月調査、有効回答356社

文章能力は「重要」

→86.5% (356社中308社)



監修者からのコメント

文章を書くこと、文章能力を向上させることは、社会で生きるために必要なコミュニケーション能力を鍛えることになります

文章は相手に自分の思いや考え、あるいは、重要な情報を伝達する手段です。的確に伝えるには、相手や場面を考えて、最も効果的な表現を考える必要があります。

「書く」ことも「話す」こともコミュニケーションですが、コミュニケーションのトレーニングには文章を書く練習が効果的です。会話の場面ではじっくり考える余裕がありません。しかし、文章を書く場面では、さまざまなシミュレーションで考えることができます。相手に伝わらないと思えば、書き直すこともできます。これがコミュニケーション能力を鍛えるトレーニングになるのです。

文章を書くことによって、“考察の力”が鍛えられることはもちろん、相手を思いやる心や相手を説得する論理的な考え方が醸成され、さらに、効果的な表現力も身につけることができます。



(公財)日本漢字能力検定協会
現代語研究室長
前 武庫川女子大学
言語文化研究所長
元 国立国語研究所室長

佐竹 秀雄

文章指導の現状

有能な人材を育てようとする学校や企業に対して、いま、学生や社員の文章能力を向上させる取り組みが求められています。

しかし、現場の指導者の多くは、文章能力の育成方法に悩んでいます。それは、文章能力に関する明確な基準や指針が設けられていなかったためです。

そこで

受験にも社会生活にも大切な、読み書き伝える力を、論理性に基づいて「測る・育てる」ことを目的として、「文章読解・作成能力検定(文章検)」は開発されました。

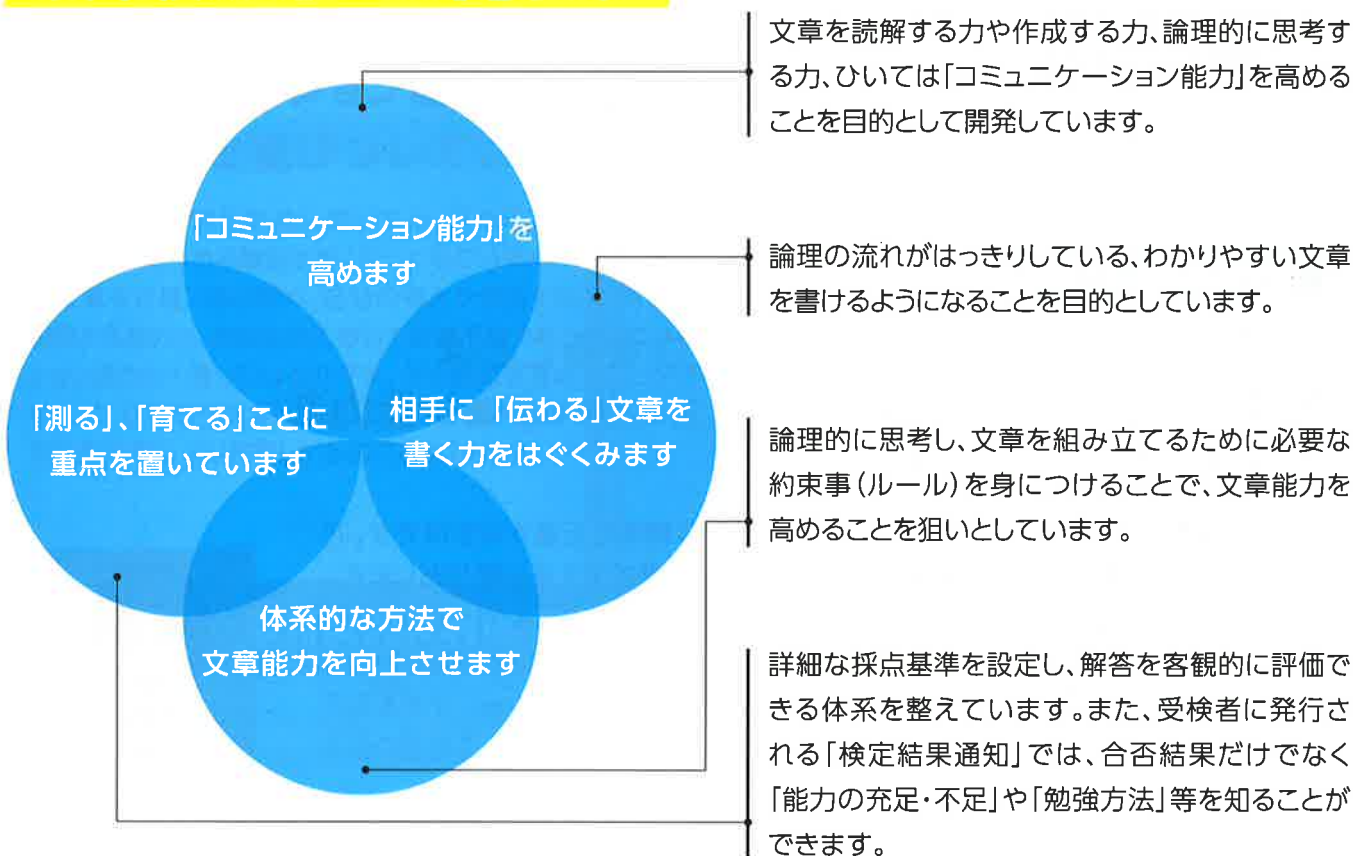
当協会と文章検

漢検

文章検
文章読解・作成能力検定

- 日本漢字能力検定協会は、社会生活に必要な日本語・漢字の能力を高め、広く日本語・漢字に対する尊重の念と認識を高めるため、日本語・漢字に関する能力育成を行い、我が国における生涯学習の振興を通じて日本文化の発展に寄与することを目的としています。
- 漢字能力育成のために、長年「日本漢字能力検定(漢検)」を実施してまいりました。その「漢検」を通じて培った漢字・語彙力の運用力を高めていただくために、2013年より、「文章読解・作成能力検定(文章検)」を行っています。

文章検の4つの特長



学習に役立つ結果資料を受検者全員に発行します

得意・不得意分野がわかる

「結果詳細」で正解、不正解を確認することで、得意・不得意分野を詳細に把握できます。

次につながる学習方法がわかる

「今後の勉強方法」の内容を実践することで、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服することができます。



文章作成力に関する詳細なフィードバックがある

「記述問題の結果詳細」で、文章を作成する問題の詳細な採点結果がわかります。

◀検定結果通知

※イメージ

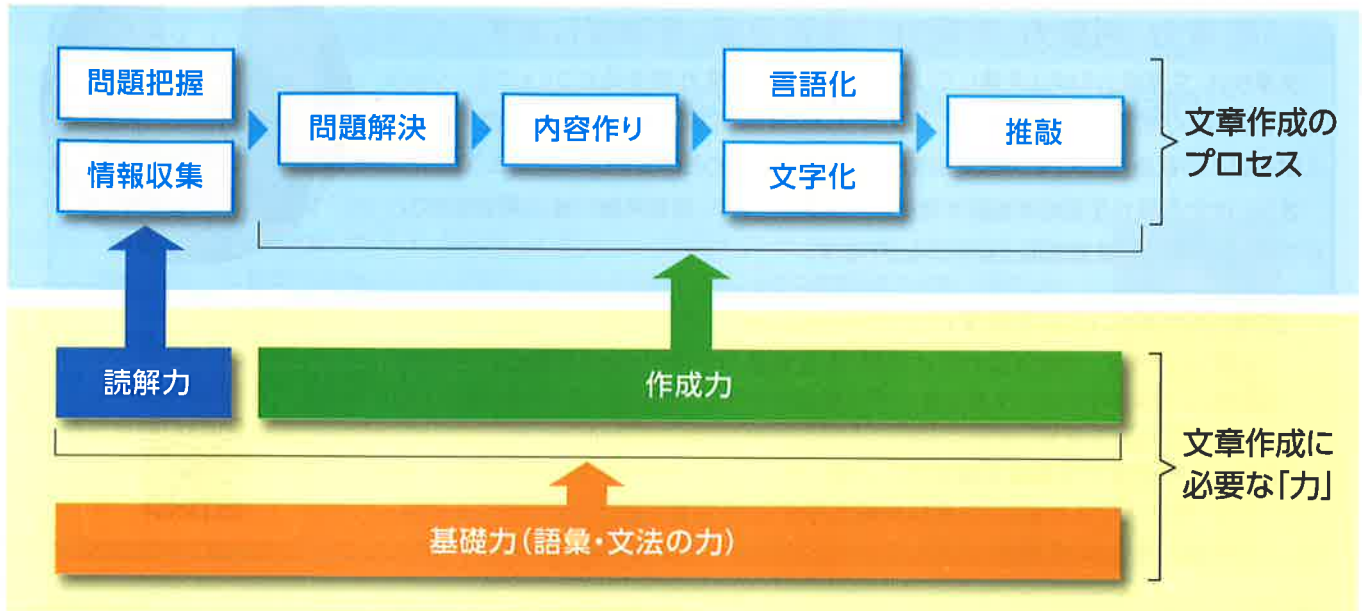
※合格者には「合格証書」、「合格証明書」も発行します。

文章検で測り、育てる3つの力



「文章を書くこと」は複数の能力が関連した総合的な技能です

文章作成は「テーマ理解」「情報収集・整理」など、多くの思考プロセスを経て行われる作業です。文章を書き慣れている人もそのプロセスを無意識に経ているのです。



文章作成には、「語彙や文法の力」・「情報を読み解く力」・「文章を構成する力」など、多くの能力が作用しています。これらの能力を個別に育成することで、無理なく文章能力を高めることができます。

文章検では、これらの能力を「基礎力」「読解力」「作成力」の3分野に分類し、それぞれの能力を測定しています。

基礎力

日本語の基礎的な知識と運用能力を指します。

基礎力は、文章を読み書きするうえで必要な語彙・文法・表記などの力です。文章検では、特に語彙・文法を中心に出题します。

→ P7 4級問題例を参照

読解力

文章や資料を読解・情報処理する能力を指します。

文章や資料(図表データを含む)を読み取る力を中心に読解力を測定します。自分が文章を作成する前提として、他者が発信する情報の内容を正確に読み解き、送り手の意図を見抜く力が必要になります。その能力を読解力と位置づけています。

→ P7 3級問題例を参照

作成力

文章を作成するための思考力と表現力を指します。

作成力は、書く材料をもとに文章を作り上げて構成する文章構成力、それを具体的な表現に展開する言語表現力、書いた文章を推敲する推敲力から成り立っています。この分野では、通信文や意見文・論説文などが出題されます。感性・芸術性といった主観的な内容を採点対象とせず、文章作成にかかわる技能を客観的に評価することで、能力を的確に測定することができます。

→ P8 準2級・2級問題例を参照

文章検が役立つ理由

学校、各種教育機関の指導者様にとってのメリット

大学入試や就職試験でつまづかないために 『思考力・判断力・表現力』『学習意欲』を伸ばします

文章検は、文章能力の向上を通じて「思考力・判断力・表現力」を含めたコミュニケーション能力を効率よく伸ばすことができます。伝え合う力の育成と「多面的・総合的に評価する大学入試選抜への転換」をめざす大学入試改革を先取りするものといってもいいでしょう。

さらに検定合格が生徒のやる気や目標にもつながります。成功体験や達成感を得ることができ、その後の学習意欲向上にもつながります。



進学や就職に役立ちます

①推薦・AO入試、一般入試の記述問題、入社試験の小論文・面接対策として活用！
論理的でわかりやすい文章を書ける文章能力が志望理由書やエントリーシートの作成時に効果を発揮します。

②調査書や面接で文章検合格をアピール！
大学・短期大学を対象に「文章検資格活用状況」を調査したところ、**3校に1校**が文章検を資格として評価、活用していることがわかりました。

活用校の詳細を
ホームページで
公開中!



明確・客観的な指導が実現します

文章検は設問のねらいが絞られていて評価ポイントも明確です。客観的な指標に基づき、経験・感覚に依存することのない、一人ひとりに合った適切な学習指導が可能です。指導にあたる先生方の負担を軽減することができます。

文章作成の方法を教えることで、 生徒が能動的に学習できる環境をつくっています。

私は、中高6年間で育成する言語能力の到達目標を「相手の主張を読み込み吟味したうえで、それに対して自らも根拠をもって意見を書くことのできる力」と置いています。

本校では中学1年生に対して、文章を書く初めの一歩として、一定の手続きを経て文章を書く訓練をさせています。その学習方法のひとつとして文章検を活用しています。

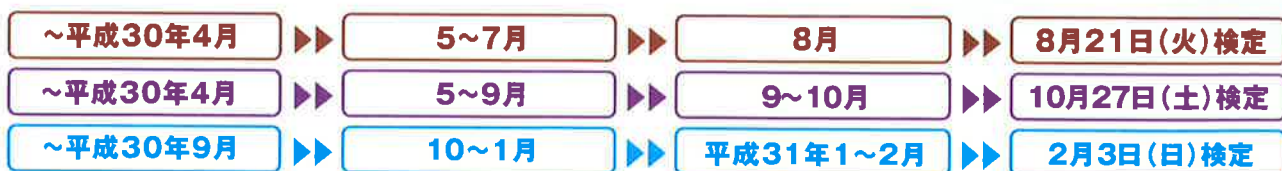
文章検に取り組む中で、どんどん文章を書いて作成能力を伸ばしている生徒も出てきました。生徒が持っている知識や年齢に相応しい文章を書けるよう、今後は学年全体として文章表現力の底上げを推し進めていきたいと考えています。



高槻中学校・高等学校
(大阪府)
国語科教諭
竹田 博雄 先生

※掲載内容(所属団体、役職等)は取材時のものです。

導入スケジュール例



○団体内で文章検の情報や実施の目的を共有。

○協会発行の『公式テキスト』を授業で活用。

○『公式テキスト』の「まとめ問題」で演習問題の解説講座を実施。

○結果資料で得意・不得意分野を把握でき、さらに文章能力を伸ばす指導が可能に!

○検定日の決定。

○文章を「どう書くか」を学び、論理的に書く訓練をする。



文章検は業種問わず様々な企業で採用されています

受検対象者は新人社員～幹部社員と、年齢問わず幅広く活用されています。

全日本空輸株式会社

日本語コミュニケーション力の土台となる文章力の測定と強化を目的に、新人研修で文章検を導入しています。

私たちはANA's Way「1.安全 2.お客様視点 3.社会への責任 4.チームスピリット 5.努力と挑戦」を体現できる強い個と組織を目指しています。多様化するお客様のニーズに応えるため、グローバル人材の育成に向けた語学力の向上や、教養(リベラルアーツ)、ダイバーシティ&インクルージョンなどの教育研修を拡充してきました。

一方で、日本社会全体では、日本語を使いこなす力が低下してきているとも言われています。IT技術の発達で文章を書く機会が減ってきた昨今、論理的に相手に伝わる文章を書くという日本語コミュニケーション力を磨く機会は減ってきているのではないのでしょうか。

当社では、日本語コミュニケーション力の土台となる文章力の測定と強化を目的に、平成28年度より新人研修で『文章検2級』を導入しています。「文章を読み、的確に要点を捉える」「わかりやすく相手に伝わる文章を書く」というコミュニケーション力の基礎について考え、学ぶ機会に生まれることを期待しています。



全日本空輸株式会社
取締役執行役員・人財戦略
室長 兼 ANA人財大学長
國分 裕之 様

大日本印刷株式会社

理系人材の論理的コミュニケーション力育成のため、文章力を技術として測定し育成する文章検を活用しています。

技術的なバックグラウンドを持ち、さらに事業・組織横断で活躍できる人材を育成するに当たり、論理的コミュニケーション能力の基礎となる論理的文章力を身につけさせたいと考えました。コストも時間も限られている中で、持って生まれた感性とみられがちな文章力を技術として測定し育成できるという点と、自学自習できる点がポイントと考え、文章検の導入を決定しました。

文章力はすべての業務の基礎であり、その基礎固めとして文章検を活用しています。今後は、各部門の若手社員にも、文章力や論理的コミュニケーション能力を向上させる目的で受検させたいと考えています。



大日本印刷株式会社
人財開発部
P&I 技術研修センター長
水沼 康弘 様

株式会社JVCケンウッド・エンジニアリング

日常の報連相の精度を改善し、業務スピードを向上させるため、幹部社員全員が文章検の2級を受検しています。

JVCケンウッド・エンジニアリングは「技術を通して事業の発展をはかり、お客様に感動を伝えていく。」という理念のもと、連携パートナーであるJVCケンウッドやその他のお客様に対し、最大限の技術提供を行う会社です。

当社では、幹部社員全員が文章検の2級を受検しています。毎週の開発に関する進捗報告、進捗に影響を及ぼす異常値の報告、毎月の部門活動のアクションプラン報告など、幹部社員には重要な文書作成をお願いしています。しかし、提出された文書だけでは内容が理解できないために、本人と直接話して確認せざるを得ないといったことが頻繁にありました。当社では、こういった日常の報連相の精度を改善し、業務スピードを向上させるため、文章検を活用しています。

文章力は、自分自身が高めようと思えば、努力をすれば結果がついてくるものだと思います。この試みがうまくいけば、次はリーダーやサブリーダーに展開し、文章力向上につながる意識改革を实行したいと思っています。



株式会社JVCケンウッド
エンジニアリング
取締役 社長
近田 佳嗣 様

※掲載内容(所属団体、役職等)は取材時のものです。

文章検ホームページにて企業のみなさまからのコメントを掲載中!

文章検 企業からのコメント

検索

各級のレベル・問題例

文章検には2～4級があり、級が上がるほど、より高度な能力を有していることを証明できます。

級	基礎力		読解力	
	語彙	文法	資料分析	文章構成
2級	漢検2級程度	●文法的な誤りのない文で文章を作成できる。	●図表から情報を正しく読み取れる。 ●図表を含む文章の要約文を完成できる。	
準2級	漢検準2級程度	●文法的な誤りを理解できる。	●図表から情報を正しく読み取れる。 ●図表の役割を理解できる。 ●図表を含む文章の情報を正しく読み取れる。	●文章全体の構成を理解し、筆者のねらいがわかる。 ●段落や文章の要旨を理解できる。
3級	漢検3級程度	●文法的に誤っている箇所と誤りの種類が選択できる。	●図表から情報を正しく読み取れる。 ●図表を含む文章の情報を正しく読み取れる。	●文章の中で、段落の役割を理解できる。 ●段落や文章の要旨を理解できる。
4級	漢検4級程度	●提示された文の前半に対して、意味的にも文法的にも正しい文を作成できる。	●図表から情報を正しく読み取れる。	●文章の中で、文や段落の役割を理解できる。 ●段落や文章の要旨を理解できる。

第1問 次の問い(問1・問2)に答えなさい。(40点)

問1 次の1～3は、(1)内の熟語を用いて作った短文です。意味の上でも用法の上でも最も適切に使われているものを、ア～ウのうちから一つずつ選びなさい。

1 (二存)
ア それぞれが自分自身の一存を自由に述べることが大切だ。
イ そんな大切なことを、私の一存で決めることはできない。
ウ クラス全員が一存になるには話し合いを重ねなくてはならない。

2 (誇張)
ア 似顔絵では、その人の顔の特徴が誇張して描かれているものがよくある。
イ 人を説得するには、自分の意見をわかりやすく誇張してはならない。
ウ あの人は、ありもしないことをまるで本当のことであるかのように誇張して話す。

3 (心機一転)
ア 長時間働いたあとは、心機一転、十分に休養をとることが大切だ。
イ 新しいコーチのもとで、心機一転、レギュラーを目指してがんばらなすつもりだ。
ウ これまで陽気で活発だった友人が、心機一転、すっかり元気をなくしてしまった。

4級
基礎力

平成25年度 第1回検定 第1問

第2問 次は、日中学校の生徒会役員が書いた文章です。これを読んで、後の問い(問1～問3)に答えなさい。(30点)

上の二つの図は、B中学校の三年生の寝る時刻と寝る前の行動に関するものである。図1は平均的な寝る時刻を、図2は寝る前にどのようなことをしているかを、寝る時間帯ごとに示した結果である。

図1 平均的な寝る時刻

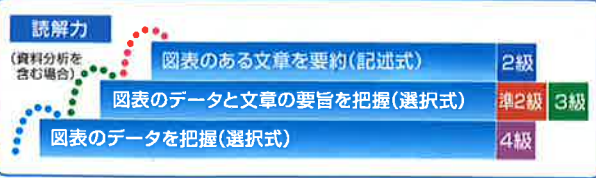
図2 寝る前にしていること(複数回答)

問1 図1を見ると、最も多いのは「12時以降に寝る人」で全体の半数近いが、それに対して「10時までに寝る人」は全体の① ① しかないことがわかる。次に、図2を見ると、どの時間帯でも寝る前に「勉強」をしているという回答が多く、特に② ② の場合、95パーセントを占めている。一方、「12時以降に寝る人」の場合、勉強も73パーセントと多いが、ゲームが90パーセント、テレビが78パーセントとなっていて、人間は睡眠時間を七時間以上とする必要があるとの説があるが、そうだとすれば朝七時に起きる場合、十二時までに寝なくてはならない。十二時以降に寝る人は睡眠時間が足りないと思われる。実際、授業時間に居眠りをしている人も時々見かける。ゲームやテレビは楽しいのでつい夜ふかしをしてしまうのがあるが、それらは休日に楽しむこととして、平日は学校生活に直接必要な勉強を優先して行い、早めに寝るべきである。

3級
読解力

平成25年度 第1回検定 第2問

スモールステップ・積み上げ方式で体系的な指導と能力の育成が可能



作成力

通信文	字数	意見文・論説文	字数
<ul style="list-style-type: none"> さまざまな通信文。 *与えられた条件のもと、手紙の形式に則り、礼儀正しい文章で完成させることができる。 *説明の文章から伝えるべき事柄を見分け、適切に配列できる。 	270字程度	<ul style="list-style-type: none"> ●4段落構成の論説文。 *文章を読んで、課題を読み取り、「事実の報告」、「意見」、「意見の正しさの論証」、「異なる意見をあげて反論する」の四つの部分によって、論説文を作成できる。 	670字程度
<ul style="list-style-type: none"> さまざまな通信文。 *メモをもとに完成させることができる。 *表記や表現、内容に関する推敲ができる。 	170字程度	<ul style="list-style-type: none"> ●4段落構成の論説文。 *「事実の報告」、「意見」、「意見の正しさの論証」、「異なる意見をあげて反論する」の四つの部分によって、論説文を作成できる。 	550字程度
<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中で必要な通信文。 *長すぎる文を整理できる。 *表記や表現、手紙の形式に関する推敲ができる。 	170字程度	<ul style="list-style-type: none"> ●3段落構成の意見文。 *「事実の報告」、「意見」、「意見の正しさの論証」の三つの部分によって、意見文を作成できる。 	450字程度
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で必要な通信文。 *メモをもとに完成させることができる。 *手紙の形式や敬語を正しく選択できる。 	100字程度	<ul style="list-style-type: none"> ●2段落構成の意見文。 *「事実の報告」と「意見」との二つの部分によって、意見文を作成できる。 	320字程度

※出題分野、出題形式、問題数は変わることがあります。

第4問

次の手紙は、ある高校生が地域の商店街について調べた後、商店街の理事長に宛てて書いたお礼の手紙です。しかし、この手紙文には欠点があるので、正しく、よい文章になるように、後の問い(問1・問2)に答えなさい。なお、手紙文では頭語・結語、時候のあいさつなどは省略してあります。(40点)

先日は、突然のお願いにもかかわらず、いろいろとお教えいただき、ありがとうございました。

理事長にお目にかかった翌日から、三日間、実地調査をしました。初日は、時間帯別の通行者数と、車庫の進入状況とを調べました。二日目と三日目は、各店舗を訪問して、お仕事の写真を見せていただいたり、お話を伺ったりしました。

予想していた以上に幅広い情報を得ることができたのは、インタビュウの経験がなく、初めはうまく質問ができたのかと心配していましたが、皆様、お忙しい中、あたたかく迎えてくださり、お仕事の苦労話や集客のために工夫されている点などについて詳しくご回答くださったおかげです。さすがに、商店街の皆様は庶民的だと感心いたしました。

これから伺ったお話をもとに調査結果をまとめていきます。皆様のご厚意を無にしないよう努力しますので、今後ともどうぞよろしくご指導ください。本当にありがとうございました。

準2級
作成力
平成25年度 第1回検定 第4問

第4問 「お祝いやプレゼントの品として、正規の値段より安値になっている品を贈ることの是非」について、次の文章を読んで、論説文を書きなさい。下の条件を守ること。(80点)

入学祝いや結婚祝い・出産祝い、また、誕生日やクリスマスなど、友人・知人に贈り物をする機会がある。贈る側が適当な品を選ぶ場合もあるし、気の置けない関係なら、あらかじめ相手の好みや希望の品を尋ねた上で、それに合わせた品を贈る場合もある。

ところで、まったく同じ物でも、それを扱っている店によって、あるいは、販売時期によって値段が違うことがある。たとえば、百貨店の食器売り場で5,000円の値札が付けられている皿は、ディスカウントショップでは4,000円で売られていることがあるし、同じ百貨店でもバーゲンセールの際になれば10パーセント引きで買えることがある。

自分用の買い物であれば、同じ物なら、より安い店・時期を選ぶことがあるだろう。では、他人へのお祝いやプレゼントとして贈り物をする場合、正規の値段より安値になった品はどうだろうか。贈る側の立場で考えると、悩ましいところではないだろうか。

条件1 論説文は次に示す順序で四つの段落に分けて書くこと。
第1段落 「お祝いやプレゼントの品として、正規の値段より安値になっている品を贈ることの是非」について、出来事やあなたの体験、知識を述べる。
第2段落 意見を述べる。
第3段落 意見が正しいことを証明する。
第4段落 第2段落の意見とは異なる意見をとりあげて、その意見が正しいことを説明する。
条件2 1行22字のマス目に横書きで、必ず27行以上、34行以内で書くこと。句読点も1字として数える。句読点が行頭に来たときは、前行末欄外にうつてよい。
注 行數不足または行數超過の場合は採点の対象となりません。

2級
作成力
平成25年度 第1回検定 第4問

▶より詳しく知りたい方のために、文章検の問題見本をご用意しております。ご希望の方は、協会までお問い合わせください。

文章検の受検概要

団体受検

団体受検とは、学校や塾・企業などの団体に志願者を**10名以上**集めて、まとめて申し込みを行う方法です。

検定会場	準会場(設置条件を満たしている学校や団体が、自ら団体受検用の会場と責任者を設け実施する)
設置条件/申込資格	○学校教育法に定める学校(専修・各種学校を含む)、各省庁所轄の学校および官公庁 ○上記以外の団体(塾や企業など)は、協会に準会場設置申請をして承認を得る(ただし、漢検準会場として既に承認を得ている団体は申請不要) ○「準会場規程」を遵守することができる団体
申込条件	2級～4級の準会場での志願者が合計10名以上「準会場規程」の遵守を誓約すること
申込方法	インターネット(団体専用ページ)から申し込み
検定料払込方法	検定日の約2週間前に発送される専用の払込票で、検定日前日までに払い込む
可否の通知	検定実施から約40日後を目安に受検者全員分の検定結果資料が一括で担当者に届く

申し込み・実施の流れ

詳細は「文章検ホームページ」をご確認ください。



個人受検

個人受検とは、志願者が直接協会に申し込み、公開会場で受検する方法です。

検定会場	公開会場(当協会または当協会と特別に提携した機関が一般の受検者のために設けた会場)
公開会場設置都市	東京都(23区内)/大阪市 ※平成30年度は全国2会場で実施予定
申込方法	インターネット・コンビニエンスストア

※上記内容を変更する際は、文章検ホームページにて公表します。

※標準解答・可否結果は文章検ホームページに掲載いたします。その他詳細については文章検ホームページをご確認ください。

検定料・検定時間

受検級	検定料(税込)	検定時間
2級	4,000円	90分
準2、3級	3,000円	60分
4級	2,000円	60分

団体受検(準会場)の検定時間について

平日と土曜日の検定

開始時刻は問いません。

日曜日の検定

公開会場と同一の問題を使用するため、下記の検定時間に準じて実施してください。ただし、許容範囲内(2級は公開会場の検定開始時刻より前後90分間、準2～4級は前後60分間)において、開始時刻を調節することは可能です。

公開会場(日曜日)の検定時間

受検級	検定時間
2級	15:00～16:30
準2、3、4級	15:00～16:00

(図) 検定開始許容時間 ← 公開会場実施時間 → 開始時刻の許容範囲

検定級	検定時間	13:00	14:00	15:00	16:00
2級	90分		15:00	← 16:30 →	
準2、3、4級	60分		15:00	← 16:00 →	

例:2級は13:30～16:30の間に開始すること

文章検 文章読解・作成能力検定

公益財団法人 日本検定能力検定協会

文章検の目的 検定の目的 受験する人 検定の科目 検定の日程 検定の会場

書けない人は書けるように、
書ける人ももっと書けるように。

受験にも社会生活にも大切な、
読み解き伝える力、
論理性に基づいて「測る・育てる」のが
文章検です。

2024年度 平成29年 8月22日(火) 準2級～4級
準2級 平成29年 10月27日(金) 2級～4級
(団体受検) 平成29年 11月11日(土) 準2級～4級
2025年度 平成30年 4月11日(土)

各級の検定科目と教材のご紹介

学校法人、各級教育機関の
検定受検へ

協会、企業等の
人材育成
ご検定受検へ

お知らせ

2024-08-27 お知らせ 「文章検ホームページ特別検定場の告知」(2024年11月13日～12月13日)

2024-04-19 お知らせ 「文章検ホームページ特別検定場の告知」(2024年2月13日～24日)

2024-04-11 お知らせ 「文章検ホームページ特別検定場の告知」(2024年4月13日～24日)

2024-04-11 お知らせ 「文章検ホームページ特別検定場の告知」(2024年4月13日～24日)

文章検ホームページ

【文章検】の特長、団体受検実施の流れや申込方法などを詳しくご紹介しています。

- 団体受検の流れや申込方法の詳細
- 文章検活用状況の調査結果
- 企業からの文章検推奨コメント
- 問題例や出題の工夫
- 文章能力に関する意識調査
- 検定問題の解説動画 **NEW**



など多数の情報を掲載!

<http://www.kanken.or.jp/bunshouken/>

文章検

またはバーコードで簡単アクセス!

教員向け・企業向け「特別セミナー」を開催

指導法における悩みなどを解消し、現場の指導力向上をはかるため、定期的を開催しています。

講演テーマ(例)

企業向け「文章能力アップで業務効率アップ！」(平成27年度開催)

- 「正しい文章」とは
- 文章能力アップで業務効率アップ
- 「てにをは」以外の「文章指導」の観点とは

教員向け「短時間でできる効果的な文章指導法」(平成28年度開催)

- 文章指導の現状セルフチェック
- 文章指導における3つの変革
- 短時間でできる文章指導法のアイデアご紹介

当協会では今後も文章指導に役立つセミナーを開催する予定です。

※過去のセミナー概要資料のご請求や、今後の開催案内を希望される場合はお問い合わせください。

ダイジェスト動画を公開中!

文章検 特別セミナー



平成30年度 検定日程

	検定日	受付開始日	申込締切日	実施級
団体受検	平成30年 8月21日(火) 漢	平成30年 4月1日(日)	平成30年 7月23日(月)	準2級/3級/4級
	平成30年 10月27日(土) 漢		平成30年 9月27日(木)	準2級/3級/4級
	平成30年 11月9日(金)		平成30年 10月9日(火)	2級/準2級/3級/4級
	平成31年 1月12日(土) 漢	平成30年 11月1日(木)	平成30年 12月12日(水)	準2級/3級/4級
	平成31年 1月23日(水)		平成30年 12月21日(金)	準2級/3級/4級
	平成31年 2月3日(日) ★漢		平成31年 1月4日(金)	2級/準2級/3級/4級
個人受検	平成31年 2月3日(日) 漢 ※東京都(23区内)、大阪市の2会場	平成30年 11月1日(木)	平成31年 1月4日(金)	2級/準2級/3級/4級

・日曜日(★の日程)に準会場受検を実施する場合の検定時間は公開会場の検定時間に準じて実施してください。

漢印は、漢検を同じ日に実施できる日程です。

文章の型を理解しながら少しずつ段階的に難易度が上がるように構成されています。授業用テキストには『文章検 公式テキスト』、自学自習(宿題など)には『基礎から学べる! 文章力ステップ』がおすすめです。書籍の内容は、文章検ホームページもご参照ください。



基礎から学べる! 文章力ステップ

基礎から段階的にステップアップする構成で、無理なく文章力を身につけられる問題集

- 自学自習に最適(詳しい別冊「解答・解説」つき)。教室での授業用テキストとしても使える。
- 文章検受験に必要な要素を網羅。検定対策だけでなく、国語の副教材としても使える。
- 文章を書く力を、いくつかの要素に分解して設問化。問題を解いていくことで、文章力全体がアップする。
- 「考えるヒント」には、解くためのヒントや着眼点を掲載。

●2・準2・3・4級
各定価 756円
(本体700円+税8%)
本冊80ページ
別冊32ページ
B5判 2色刷



文章検 公式テキスト

詳しい解説と問題演習で確かな文章力を養い、文章検合格に導くテキスト

- 教室での授業用テキストに最適。自学自習にも使える。
- 文章検受験に必要な要素を網羅。文章検で測定される「基礎力」「読解力」「作成力」の3分野を、基礎的なものから順に学習できる。
- 「解説ページ」→「練習問題ページ」の構成で、学習の要点をしっかりおさえてから演習できる。
- 学習に役立つコラムを掲載。

●2・準2・3・4級
各定価 486円
(本体450円+税8%)
2級 本冊64ページ
別冊24ページ
準2・3級 本冊64ページ
別冊20ページ
4級 本冊64ページ
別冊16ページ
B5判 2色刷



文章検 過去問題集 Vol.1

2015年度・2016年度実施の全検定問題を収録した過去問題集

- 2級は5回、準2、3、4級は11回分の検定問題を収録。
- 別冊では、記述式問題の採点における重要項目を【チェックポイント】としてリスト化。自学自習時の答え合わせで、自分の解答について、大事なポイントを漏らさずチェックできる。
- コピーして使用できる答案用紙付き。

●2・準2・3・4級
各定価 1,188円
(本体1,100円+税8%)
2級 本冊48ページ
別冊48ページ
準2・3級 本冊120ページ
別冊96ページ
4級 本冊160ページ
別冊96ページ
B5判 1色刷

ご注文方法

注文書はコピーしてご使用ください

赤枠内に必要事項をご記入ください。

- ①貴団体の情報をご記入ください。
 - ②冊数欄にご注文冊数、教師用(指導者用)献本の冊数、および合計冊数をご記入ください。
 - ③0570-0509-88へFAXでお送りください。
- ※下部の注意書きも必ずお読みください。

注文書使用期間 ~ 2019.2.28

発注日/ 年 月 日

会場番号	注文ご担当者名
貴団体名	
TEL	FAX

↓送付先がご登録住所と異なる場合のみご記入ください。(請求書は登録の住所にお送りします)

送付先住所 〒	
送付先名(団体名)	
送付先TEL	送付先ご担当者名

備考欄

ご記入頂きました個人情報、商品の送付や代金請求業務にのみ使用します。
(ただし、送付に際し、発送代行会社に作業を委託する場合があります。)
なお、個人情報のご記入は任意ですが、必須事項をご記入頂けない場合は商品の送付が出来ない場合がございますので、ご注意ください。
ご記入頂きました個人情報に関する開示、訂正等お問い合わせは下記の窓口へお願いします。
公益財団法人日本漢字能力検定協会 個人情報保護責任者 事務局長
個人情報相談窓口 <http://www.kanken.or.jp/privacy/>



◆教師用(指導者用)献本とは◆

授業等で指導用としてご活用いただくため献本するものです。
教師用献本は、シリーズ注文合計10冊ごとに1冊おつけできます。
ご注文の書籍と同シリーズからお選びください。

書籍名	税込価格	級	コード	冊数	教師用献本
基礎から学べる! 文章力ステップ	各¥756	2級	7368		
		準2級	7351		
		3級	7334		
		4級	7335		
			小計	冊	冊
文章検 公式 テキスト	各¥486	2級	7336		
		準2級	7337		
		3級	7338		
		4級	7339		
			小計	冊	冊
文章検 過去問題集 Vol.1	各¥1,188	2級	7364		
		準2級	7365		
		3級	7366		
		4級	7367		
			小計	冊	冊
合計冊数				冊	冊
合計金額				円	0円

★ご注文の前に必ずご一読ください。★

お届けについて

- 送料は無料です。児童生徒・学生の皆様への個別送付には対応しておりませんので、ご了承ください。
- ヤマト運輸にて発送しております。冊数によっては、ポスト投函となる発送方法になります。着日指定ができませんのでご了承ください。
- 発送日は、AM11:00までにご注文いただいた場合、当日出荷になります。AM11:01以降のご注文は、翌日出荷になります。(土日祝日・年末年始を除く。)

お支払いについて

- 書籍とは別に、普通郵便にて請求書とゆうちょ銀行の振込用紙(手数料無料)を、登録されている住所にお送りいたします。期日までにお振り込みください。
- 請求書は書籍の送付先に関わらず、協会に登録されている住所へ送付します。児童生徒・学生の皆様への個別の請求書は対応いたしかねます。

返品について

- 返品は原則受け付けておりません。乱丁・落丁本はお取り替えいたします。その他、お届け内容の間違いなどの場合はご連絡ください。



公益財団法人 日本漢字能力検定協会
お問い合わせ窓口: 0120-509-315 (無料)

FAX: 0570-0509-88

※ナビダイヤルは通常通話料金でご利用いただけるFAX番号です。
通話料金は NTT コミュニケーションズ(株)からの請求となります。



注文処理用コード

協会使用欄



(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 準2級

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

測定しようとする資質・能力の 具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
・漢検準2級(常用漢字のうち 1940字)程度の語句・慣 用表現の意味が理解でき、文 脈や意味に応じた語句・慣用 表現を選別できること。	【設問数】5問(程度) 【出題形式】選択式	C 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 C 読むこと	中学校国語第3学年 C 読むこと (1) ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 イ 言葉の特徴やきまりに関する事項 (イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ウ 漢字に関する事項 (ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。

測定しようとする資質・能力の 具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
<p>・表現において、文法的な違いが果たす意味・役割を理解できること。</p>	<p>【設問数】3問(程度) 【出題形式】選択式</p>	<p>C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</p>	<p>国語総合 C 読むこと (1) ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 イ 言葉の特徴やきまりに関する事項 (イ)文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。</p>
<p>・資料から読み取れる事実をもとに、段落や文章の要旨及び筆者の意図を理解できること。</p>	<p>【設問数】3問 【出題形式】選択式 サンプル問題</p>	<p>C 読むこと</p>	<p>国語総合 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 (2) イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 中学校国語第1学年 C 読むこと (2) イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。</p>

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

測定しようとする資質・能力の 具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
<p>・段落や文章の要旨を理解できること、及び筆者の意図を理解できること。</p>	<p>【設問数】3問(程度) 【出題形式】選択式</p>	C 読むこと	<p>国語総合 C読むこと (1)エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。</p>
<p>・文法的に正しい文を書けること。</p>	<p>【設問数】3問(程度) 【出題形式】短答式</p>	B 書くこと	<p>国語総合 B書くこと (1)ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。</p>
<p>・さまざまな通信文を与えられた条件のもとで書けること。</p>	<p>【設問数】1問 【出題形式】記述式(100字程度)</p>	B 書くこと	<p>国語総合 B書くこと (2)ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p>
<p>・「事実の報告」「意見」「意見の正しさの論証」「異なる意見をあげて反論する」の四つの部分による論説文を作成できること。</p>	<p>【設問数】1問 【出題形式】記述式(550字程度) サンプル問題</p>	B 書くこと	<p>国語総合 B書くこと (1)イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。</p>

※ 本資料は、検討段階のたたき台であり、今後更に検討を進める上で十分変更があり得るものである。

(様式5)

サンプル問題について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 準2級

対象教科：国語

測定内容の区分：標準タイプ

サンプル問題番号(大問番号)：5

出題科目	国語総合																				
出題のポイント	与えられた条件を理解し、対立する二つの意見のうち、いずれかの立場に立って自分の意見を述べ、その根拠を論理的に説明できるかどうかを測定する。その際、説得力を増す方法として、異なる意見を想定して、それに反論することを求める。																				
主として問う能力	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr></thead><tbody><tr><td>なし</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	なし		○														
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																			
なし		○																			
出題形式	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	小問番号	選択式	短答式	記述式				○												
小問番号	選択式	短答式	記述式																		
			○																		
主として問う技能(英語のみ)	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>聞く</th><th>読む</th><th>話す</th><th>書く</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	小問番号	聞く	読む	話す	書く															
小問番号	聞く	読む	話す	書く																	
サンプル問題	別紙A1参照																				
解答例	別紙A2参照 (正答条件) 観点1 設問で指定した条件通りに述べられている 観点2 経験などにもとづいて「事実」が具体的に述べられている 観点3 賛成・反対のどちらかの立場に立って明確に「意見」が述べられている 観点4 その立場に立つ一般化された「理由」が述べられている 観点5 「事実」と「理由」が論理的に「意見」を支えている 観点6 「異なる意見」に対する「反論」が述べられている 観点7 誤字・脱字や文法に関する誤りがない																				
(参考)学習指導要領の関連項目	国語総合 B書くこと (1)イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。																				

サンプル問題番号(大問番号): 2

出題科目	国語総合																							
出題のポイント	図表の正しい読み取りができるかどうか、図表を含む文章の意味内容を正しく読み取り、筆者の意図を理解できるかどうかを測定する。																							
主として問う能力	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>知識・技能</th> <th colspan="2">思考力・判断力・表現力等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問1</td> <td></td> <td colspan="2">○</td> </tr> <tr> <td>問2</td> <td></td> <td colspan="2">○</td> </tr> <tr> <td>問3</td> <td></td> <td colspan="2">○</td> </tr> </tbody> </table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		問1		○		問2		○		問3		○					
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																						
問1		○																						
問2		○																						
問3		○																						
出題形式	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>選択式</th> <th>短答式</th> <th>記述式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問1</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>問2</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>問3</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	問1	○			問2	○			問3	○						
小問番号	選択式	短答式	記述式																					
問1	○																							
問2	○																							
問3	○																							
主として問う技能(英語のみ)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>聞く</th> <th>読む</th> <th>話す</th> <th>書く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く															
小問番号	聞く	読む	話す	書く																				
サンプル問題	別紙B参照																							
解答例	問1:ウ 問2:ア 問3:ア																							
(参考)学習指導要領の関連項目	<p>国語総合</p> <p>C読むこと</p> <p>(1)イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</p> <p>(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。</p> <p>中学校国語第1学年</p> <p>C読むこと</p> <p>(2)イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと</p>																							

第5問 旅行など、ふだんは行かない土地に行くことがあります。そのようなとき、後々まで思い出を残しておくために、「写真はたくさん撮るほうがよい」という意見と「写真はたくさん撮らなくてもよい」という意見があります。どちらかの立場に立って、論説文を書きなさい。次の条件を守ること。
(70点)

条件1 論説文は、次の順番で四つの段落に分けて書くこと。

第1段落 出来事・体験・知識を述べる。

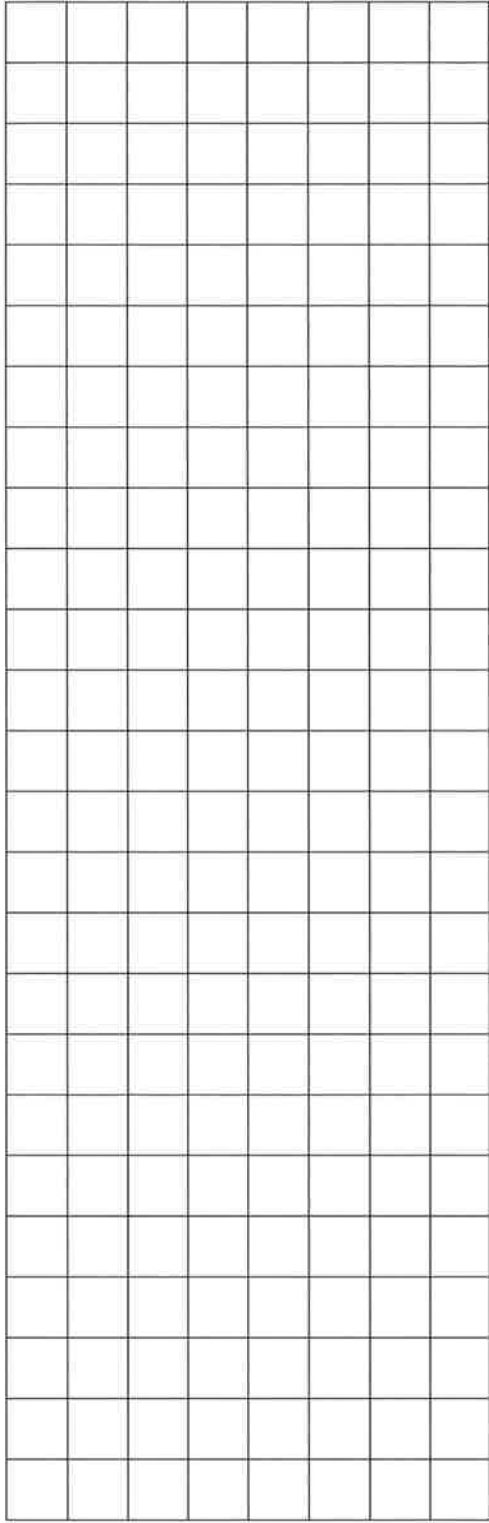
第2段落 意見述べる。
「ふだんは行かない土地で写真を撮ること」について、あなたの意見を支える出来事・体験・知識を述べる。

第3段落 意見の根拠を論理的に説明する。
「写真はたくさん撮らなくてもよい」のどちらか、意見を明確に述べる。

第4段落 第2段落の意見とは異なる意見をとりあげて、その意見が正しくないことを説明する。

条件2 1行25字のマス目に縦書きで、必ず18行以上、26行以内で書くこと。句読点も1字として数える。句読点が行頭にきたときは、前行末欄内または欄外にうつてよい。

注意 行数不足または行数超過の場合は採点の対象となりません。



第5問 【70点】

作成例1

先日、私の生まれた町を三十年ぶりに訪れた。再開発が進んだこともあって、以前の私の記憶とはすっかり違った町の姿になっていた。それでも私は懐かしさにまかせて、手当たり次第に通ったり町並みの写真を撮っていた。後日、それらを改めて見ていると、その写真の背景に、子供のころ見慣れた山々が、当時と変わらない姿で写りこんでいるのに気づいた。それで、町並みは変わっても、この町は私の故郷だと感じられたことを思い出した。

写真はいろいろなことを思い出すいいきっかけになる。ふだんは行かない土地に行ったときには、写真はたくさん撮るほうがよい。

人間の記憶はあいまいだし、時間がたつにつれて消えていく。見ていたつもりで見過ごしているものも多い。しかし、写真はそうした記憶を鮮明によみがえらせてくれる。その写真のメインの被写体だけでなく、写真に写りこんだちょっとしたものや背景に映っている何かから、写真を撮った場所のことや町の雰囲気などが感じ取れるからだ。

カメラなどには頼らず、直接目で見た印象や、そのとき触れてみた感覚を大事にしたいから写真は撮らないという人もいる。とはいえ、そのような一時的な情緒もやがては薄れてしまう。しかし写真があれば、そのときの鮮烈な印象や感覚をよみがえらせることも可能になる。つまり、写真を撮ってこそ、そのときの印象や感覚を大事にできるといえるのだ。

(25字×25行)

作成例2

私はかつて、どこへ行っても写真はばかり撮っていた。食べたものや出会った人、ふと見上げた空など、とにかく目の前に何が出てきてもとりあえずカメラを向けることが習慣になっていた。もし忘れてしまったり、見過ごしたりしたことがあっても、あとで写真を見れば全部思い出せると思っていた。ところが、意外なことに、そのとき不意に出会った人のことなどの記憶がかなり薄れてしまっていることに、あるとき気づいた。写真があるという安心感で、その人たちの印象を注意深く受け止めようとしていなかった自分のうかつさを、残念に思った。出かけた先での思い出を残すためには、いろいろな方法がある。写真もその一つではあるが、ふだんは行かない土地に行ったときには、写真はたくさん撮らなくてもよい。

たくさん撮ろうとすると、カメラを構えることにはばかり集中して、人やものを直接目で見たり、直接手で触れてみたりということがおろそかになり、五感で受け止める印象が薄くなる。つまり、旅先でしか感じられないものを直接味わうことを放棄することになる。とてももったいないことである。

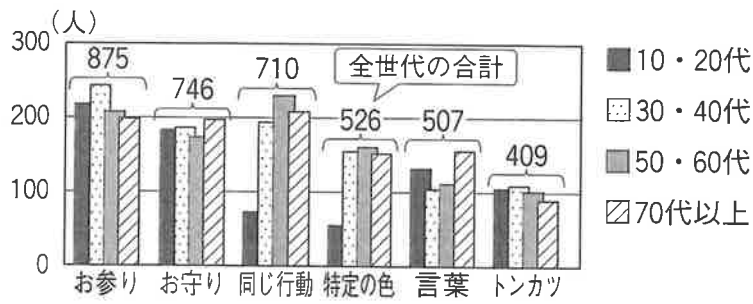
写真は旅先での思い出を後々に残せるものだから、どんどん撮ればよいという人もいる。ただ、そのようにして撮った写真の中には、自分がどういう動機で撮ったのかわからないような写真も少なからずある。だからどんどん撮ったとしても、自分の大切な思い出を形作るものとはなりえない。

(25字×26行)

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問3）に答えなさい。

(30点)

図 何かを成功させたい時に行うこと (複数回答)



お参り＝神社等へのお参り
 お守り＝お守りを身に着ける
 同じ行動＝毎回同じ行動をする
 特定の色＝特定の色の物を身に着ける
 言葉＝言葉に気を付ける
 トンカツ＝トンカツなどを食べる

上図は、ある調査会社が、首都圏に住む「一〇・二〇代」「三〇・四〇代」「五〇・六〇代」「七〇代以上」の各世代三〇〇人、計一二〇〇人を対象に「何かを成功させたい時に行うこと」について調べた結果である。合計が多い順に項目を並べている。【段落A】

全体として最も多いのが「お参り」で八七五人、次いで「お守り」が七四六人となっている。お守りは神社等で手に入れる場合が多いと考えられることから、①。また、

三位は「同じ行動」(七一〇人)であった。これは、たとえば、いつも左足から靴をはくなどといったものである。これと四位の「特定の色」(五二六人)とを合わせた二項目からは、「同じパターンを繰り返すこと」を重要視していることが分かる。【段落B】

「言葉」(五〇七人)は、試験の時に「オチル」「スベル」などの言葉をなるべく使わないようにすることであり、「トンカツ」(四〇九人)は「勝つ」と「カツ」とを掛けたものである。前者は言葉を使用しないことによって、後者は言葉を活用することによって、成功のために縁起を担いでいる。行動はまったく違うが、②。【段落C】

さて、ここで世代による差に注目してみると、一〇・二〇代が他の世代と大きく違って

いる項目がある。それは「同じ行動」と「特定の色」の二項目で、どちらも他の世代より一〇〇人前後少ない。これは、一〇・二〇代では、こうすればうまくいったという経験そのものが少なく、そのため、「自分が決めた行動パターン」が定まっていな人が多くことが理由の一つではないかと推測される。

【段落D】

問1 文中の空欄①に入る内容として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。

- ア 年代に関係なく信仰心があついで多いことが分かる
- イ 神社に参拝する人はお守りを必ず購入していると言える
- ウ 多くの人が成功を願う際には「神頼み」をしていることがうかがえる
- エ 「お参り」と「お守り」の二項目を同時に回答している人が多いと考えられる

問2 文中の空欄②に入る内容として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。

- ア いずれも「言葉の力」を信じているものである
- イ 世代による差はあまりないと言える
- ウ 「言葉」と回答した人の方が多い
- エ すべての世代の中では七〇代以上の人の回答が最も多い

問3 段落Dの要旨として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。

- ア 一〇・二〇代は他の世代と回答の傾向が違って、「同じ行動」「特定の色」が少ない。これはまだ「自分が決めた行動パターン」が定まっていなかったためであろう。
- イ 「同じ行動」「特定の色」には世代による差が認められ、その差は一〇〇人前後である。
- ウ 一〇・二〇代は他の世代と比べると、成功を願うときの行動に特徴がある。それは、「神頼み」をする人は多いが、それ以外の行動パターンが非常に少ないことである。
- エ 世代による差に注目してみると、一〇・二〇代は他の世代よりも人生経験が少ないために「自分が決めた行動パターン」も定まっていなかった。